

2025年2月12日

日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者：坂本 徹

1. 概 要

歩行名称	北海道ブロック（6）
歩行区間	スタート地点：宗谷岬 ゴール地点：紋別市役所
実施期間	2023年9月14日（木）～9月21日（木）〔7泊8日〕
全歩行距離	200km

2. メンバー表

No	役割・分担	氏 名	年齢	歩行日数	備 考
1	リーダー・企画・運転・会計	坂本 徹	66	4 日	ワングルOB24 期
2	記録	味沢 俊治	67	4 日	坂本徹の大学1 期先輩
3	記録・運転	岸田 英子	74	4 日	坂本徹所属の山の会会員
4	記録・運転	坂本 和子	60	4 日	坂本徹所属の山岳会会員OB
5	記録・運転	笠井 浩	61	4 日	坂本徹所属の山岳会会員OB
6	記録・運転	芳森 佳子	71	4 日	大阪府立大ワングルOG

3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者
1	9/14	羽田空港昼便にて旭川空港へ、旭川空港からレンタカーにて留萌経由で日本海側の道路（2024 年 6 月の歩行コース）を走行して稚内市に移動	—	
2	9/15	宗谷岬→浜猿払交流センター	40.3 Km	メンバー表記載の 6 人
3	9/16	浜猿払交流センター→枝幸町役場	57.5 Km	同 上
4	9/17	枝幸町役場→道の駅おうむ	55.5 Km	同 上
5	9/18	道の駅おうむ→紋別市役所	46.5 km	同 上
6	9/19	美瑛・富良野	—	
7	9/20	層雲峡	—	
8	9/21	旭川市内名所巡り、旭川空港昼便にて羽田空港へ		
合 計			199.8 km	

4. 参加費・費用

(1) 歩く会会費(参加費) 参加者延べ日数4日*100円(6人分) 合計 2,400円

(2) 一人当たりの費用

① レンタカー (借料・保険16,554円、ガソリン3,900円、高速料金・駐車料金1,790円) 22,244円

② 宿泊料 1泊目(9/14): ホテルサハリン(1泊朝食付) 和室2人部屋8,450円/人
2泊目(9/15): 旅館山一(1泊2食) 和室・洋室2人部屋7,700円/人
3泊目(9/16): ホテルオホーツクパレス(1泊2食付) ツイン9,020円/人
4泊目(9/17): ホテルオホーツクパレス(1泊朝食付) ツイン5,830円/人
5泊目(9/18): ホテルクレセント旭川(素泊まり) ツイン5,000円/人
6泊目(9/19): 層雲峡観光ホテル(1泊2食付) 2人部屋12,705円/人
7泊目(9/20): 旭川駅近くのホテル(飛行機と宿泊1泊分のパック商品などで各自調達)
宿泊料の合計 48,705円

③ 飲食代 1日目(9/14) 夕食・交流会代(なら鮭) 3,100円~5,020円
2日目(9/15) 夕食時飲み物代 500円~910円
3日目(9/16) 夕食時飲み物代 750円~1,550円
4日目(9/17) 夕食・交流会代(焼肉) 3,200円~4,200円
5日目(9/18) 夕食・交流会代(居酒屋) 2,700円~3,800円
6日目(9/19) 夕食時飲み物代 700円~1,900円
7日目(9/20) 夕食・交流会代(濱焼北海道魚萬) 3,500円
飲食代等の合計 14,450円~20,880円

④ 通信費・資料代・記録写真集代 3,000円

⑤ 抗原検査キット代 300円

⑥ 施設入場料: 麓郷の森 500円

⑦ 総計 89,199円~95,629円

(3) その他各自支払費用

① 旭岳空港往復チケットとホテル1泊付きパック商品 47,000円~50,600円

② 交通費(羽田までの交通費)

③ 昼食代、お土産等は各自支払

5. 歩き方

(1) 歩行の班編成: 3班(各班2名)で分担・分割方式で歩行

① メンバーの体力を勘案して、ハヤブサ班(歩行距離19~23km程度)とチーター班(歩行距離15~19km程度)とウサギ班(歩行距離11~14km程度)に区分して、メンバーの希望を考慮して決定しました。

② 班長は、歩行一日目は北海道歩行経験者を配置しました。

③ 班編成は、レンタカー運転者の配置を勘案して、班メンバーは日替わりで編成しました。

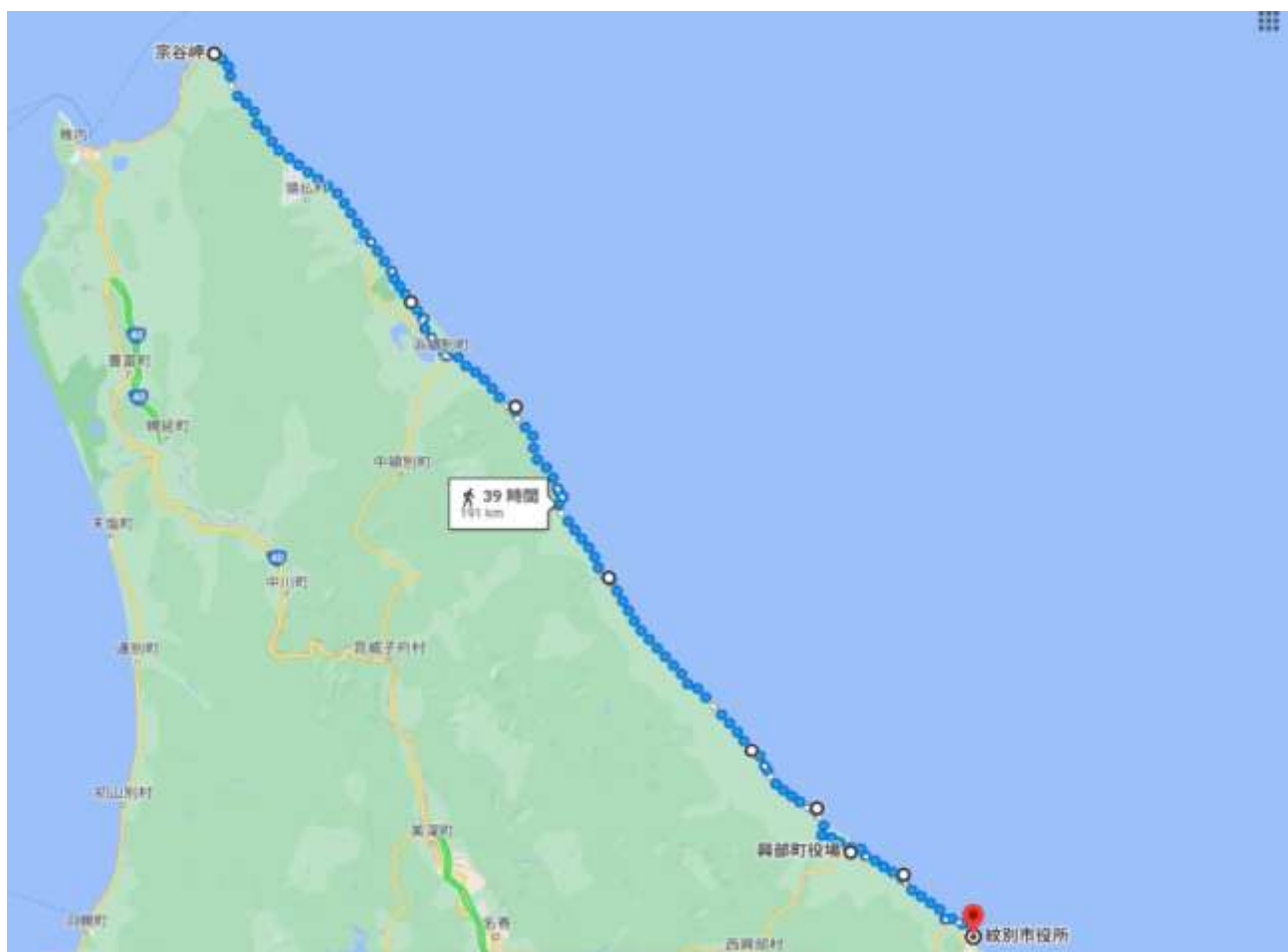
④ ハヤブサ班は、青森県歩行経験者（毎日 20 km 歩行：笠井浩、芳森佳子、味沢俊治、坂本和子、坂本徹）を配置しました。

⑤ 班編成の同行者は、2 回同じ人にならないように配置しました。

歩行日・区間・距離	班と歩行距離	班 長	メンバー
9 月 15 日（金） 宗谷岬⇒浜猿払交流センター 歩行距離 40.3 km 宿泊地：稚内市	ウサギ班 8.2 km 宗谷岬←宗谷丘陵展望台パークキング	坂本和子	芳森佳子
	チーター班 15.0 km 宗谷丘陵展望台 P←知来別漁港	笠井浩	岸田英子
	ハヤブサ班 17.1 km 知来別漁港←浜猿払交流センター	坂本徹	味沢俊治
9 月 16 日（土） 浜猿払交流センター⇒枝幸町役場 歩行距離 57.5 km 宿泊地：紋別市	ハヤブサ班 21.9 km 浜猿払交流センター⇒道の駅北ホック	笠井浩	味沢俊治
	ウサギ班 16.2 km 道の駅北ホック⇒北見神威岬灯台	岸田英子	芳森佳子
	チーター班 19.4 km 北見神威岬灯台⇒枝幸町役場	坂本徹	坂本和子
9 月 17 日（日） 枝幸町役場⇒道の駅おおむ 歩行距離 55.5 km 宿泊地：紋別市	ウサギ班 17.0 km 枝幸町役場⇒山臼コミュニティセンター	坂本徹	岸田英子
	チーター班 18.2 km 山臼コミュニティセンター⇒音標コミュニティセンター	笠井浩	芳森佳子
	ハヤブサ班 20.3 km 音標コミュニティセンター⇒道の駅おうむ	味沢俊治	坂本和子
9 月 18 日（月） 道の駅おおむ⇒紋別市役所 歩行距離 46.5 km 宿泊地：旭川市	ハヤブサ班 19.1 km 道の駅おうむ⇒道の駅おこっぺ手前の駐車帯	坂本徹	芳森佳子
	ウサギ班 12.7 km 道の駅おこっぺ手前の駐車帯⇒沙留漁港	味沢俊治	岸田英子
	チーター班 14.7 km 沙留漁港⇒紋別市役所	笠井浩	坂本和子

（2）歩行の効率化のためレンタカー 2 台（ダイハツ ロッキー、ホンダ フリード）を併用

（3）歩行ルート（次の地図のとおり）



6. 歩行の詳細

(1) リーダー報告：坂本 徹

北海道ブロック第5回歩行は、2021年9月に第1回、2022年6月に第2回、2022年9月に第3回、2023年6月に第4回歩行を実施し、以後初秋の9月と梅雨のない初夏の6月に年2回実施していく計画とし、第5回歩行は2023年9月14日～9月21日に実施予定としていました。

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月に中国で初めて報告され、今もなお世界的な流行を見せています。日本では2023年4月1日までに33,462,859人（国内人口の約26.5%）が新型コロナウイルス感染症と診断されています。2023年5月8日から季節性インフルエンザなどと同じ感染症法に規定される“5類感染症”に移行しました。これにより、政府が外出自粛を要請することはなくなり、感染対策は個人や事業者の判断に委ねられることになりました。このため、安全・安心に参加者同士が交流できるようにコロナ抗原検査キットによる検査を初日に実施し、参加者全員の陰性確認を行いました。

参加者は、第1回～第4回の歩行参加者の味沢俊治さんと坂本徹、第2回～第4回の歩行参加者の岸田英子さん、第3回と第4回の歩行参加者の坂本和子さん、第4回の参加者の笠井浩さん、初参加の芳森佳子さん、参加人数は6人となりました。班編成は3班編成とし、計画どおり4日間の歩行で日本最北端の宗谷岬から紋別市役所までの総距離200kmを完歩できました。



今回歩行の出発点の日本最北端の宗谷岬にて

第5回歩行は、北海道歩行方針（離島等歩行・名所旧跡巡りを設定）に基づき、紅葉の大雪山（旭岳⇄黒岳）交差縦走登山と紅葉の大雪山高原温泉沼めぐりトレッキングを実施する計画でしたが、残暑が続いて気温が下がらずに朝の冷え込みがないため、例年にくらべて紅葉が進んでいませんでした。また、天気予報も好天は期待できないため、大雪山交差縦走登山と大雪山高原温泉沼めぐりトレッキングは次回以降に持ち越しとしました。代替として、富良野、美瑛、層雲峡、旭川の名所旧跡巡りを行いました。

これまでの第1回～第4回の歩行では、幸運にも雨に降られることはありませんでした。今回歩行では2日間雨に降られてしまいました。秋の歩行実施期間の設定は、秋雨前線の影響を受けにくい9月中旬としていましたが、生憎にも雨天となりました。

日本の海岸線を歩く旅は、「日本再発見の旅」「人との出会いの旅」「参加者の交流と結束によるチーム力発揮の旅」と考えています。参加者は、北海道の絶景や名所旧跡などに会い、現地の人々と交流し、北海道の歴史を垣間見て、新たな発見があったことと思います。また、お互い交流を深め、健康で歩ける幸せを感じながら歩く旅ができたと思います。

今回もこれまでの歩行と同様に参加者間の連絡手段として、グループLINEを作成しました。各班から歩行状況と写真が頻繁にアップされて、一緒に歩行しているという一体感を持つことができました。

私は、1993年～1998年の5年間札幌市に在住して道内を巡りましたが、今回歩行したところは訪れる回数が比較的少なかった地域です。今回歩行目線で見ることができて、多くの新しい発見がありました。

（2）行動記録

《1日目（9月14日）》 天気 雨のち曇り：昼便の飛行機で羽田空港から旭川空港に移動、旭川空港からレンタカーにて留萌経由で日本海側の道路（2024年6月の歩行コース）を走行して稚内市に移動

10時15分 羽田空港第2ターミナル2階の集合場所に岸田英子さん、芳森佳子さん、坂本和子さん、坂本

徹4人が集合した。

11時15分 羽田空港（AIRDO83 便）発、旭川空港着12時50分の予定だったが、出発の飛行機混雑のため離陸遅延により15分遅れで到着した。



羽田空港は晴れていましたが、旭川空港は雨でした

笠井浩さんは、前日9月13日に羽田空港17時15分発（AD0087 便）にて移動（旭川空港18:50 着）、旭川駅近くのプラトンホテルに宿泊し、14日旭川空港オリックスレンタカー店で合流した。

味沢俊治さんは、当日羽田空港7時00分発（AD0081 便）に搭乗予定であったが、バス遅延により間に合わず、11時15分羽田空港発便のキャンセル待ちをしたが、幸運にもキャンセルが出て同じ便に搭乗できた。

旭川空港オリックスレンタカーでレンタカー2台を借り受け、13時55分に出発。途中道の駅おびらと道の駅えんべつ富士見で休憩、夕日スポット2か所に立ち寄り、利尻島の夕景を撮影した。



借り受けたレンタカー2台



日没と利尻島の夕景



利尻島の夕景

18 時 55 分ホテルサハリンに到着した。

19 時 50 分～21 時 20 分夕食&交流会は寿司屋「なら寿司」で、交流会は「これまで参加した歩行の感想と今回歩行に期待すること」をテーマとして行った。

21 時 30 分ホテルに戻り解散した。

(坂本徹 記)



ホテルサハリン



寿司屋「なら寿司」での交流会

《2 日目（9 月 1 5 日）》 天気 晴れ：宗谷岬→浜猿払交流センター



朝食前の散策にて 稚内港北防波堤ドーム



稚泊航路記念碑

8時00分 ホテルサハリン発。



出発前にホテルにて

【ウサギ班：宗谷岬←8.2 km—宗谷丘陵展望台パーキング】メンバー：坂本和子、芳森佳子

9時10分 宗谷丘陵展望台P着後歩行スタート。海岸に下りる場所を探るも歩けるような海岸線がなく、諦めて海を見下ろしながらほぼ1日中舗装道路歩行。

10時30分 稚内市宗谷村豊岩遺跡群。宗谷岬からオホーツク海沿い南方3.5km間の豊岩地区に1万年前～4000年前に人々が生活していた事を物語る縄文文化期の遺跡が、そして又1600年～1200年前のオホーツク文化期の土器などが多数出土。はるか1万年前、当時は多分地形も気候も違っていただろうが、この地でどんな人達がどういう生活を営んでいたんだろう？と。



宗谷丘陵展望台Pにて

9月というのに暖かなオホーツク海の風に吹かれながら、しばし数千年前の世界にタイムスリップ。

10時50分 知志矢橋土木工事現場に『快適トイレを設置しています。ご自由にご利用ください』という看板。興味半分で有難く利用させて頂きました。まさに現場の仮設トイレとは思えぬ快適トイレでした。



史跡豊岩遺跡群の案内板

11時20分 「日本最北端の学校」と書かれた今年創立130周年（明治26年創立）の稚内市立大岬小学校。この地域（猿払村）はホタテを筆頭にカニ、鮭などで、国内でも有数の超富裕自治体で若い世代が増えて出生率が高く、稚内市では珍しく児童数が増加している学校。この辺りの海岸線の住宅エリアでは競い合うような新築ラッシュ。しかも驚くほど大きく立派な邸宅ばかりで、車庫には高級車がズラリと並んでいるのはそういうことなのね、と納得。まさに『ホタテ御殿』の競演。



快適トイレの案内板



「日本最北端の学校」の案内板

11時40分 宗谷港を通りかかった時 タイムリーにもそのホタテ漁船が次々と帰港。時間的余裕あるウサギ班は 初めて見るホタテの水揚げの様子を、目を輝かせワクワクしながら学ばせて頂きました。そのうえ船のオーナーさんが、水揚げしたばかりの新鮮なビッグサイズの貝柱を見事な手捌きで「はい、どうぞ」... ご馳走さまでしたー！！しっかり歩いた？ご褒美を頂きました（笑）。



ホタテの水揚げの様子



ホタテ水揚げ作業



宗谷岬のお店

13 時 20 分 ゴール地点 宗谷岬到着。

14 時 00 分 宗谷岬公園にて昼食後、散策。

15 時 00 分 ハヤブサ班と合流。

(芳森佳子 記)

【チーター班：宗谷丘陵展望台パーキング←15.0 km—知来別漁港】メンバー：笠井浩、岸田英子

10 時 15 分 港道路 238 号側にホンダフリード車を置き歩き出す。

11 時 26 分 東浦漁港までは砂浜、素足歩き、波の音、温度、気持ちいい。



ホンダフリード車を置き、歩行開始

「波もピリカの〜子守のように」の歌を感じながら、秋鮭を釣り上げている人に聞く「どう食べるの?」「チヤンチヤン焼き」野菜と味噌で鉄板焼きに。鮭の大きさが解るかなと笠井氏が足を伸ばし、写真撮影する。



砂浜、素足歩き、波の音、温度、気持ちいいー



鮭の大きさが解るよう靴を入れて撮影



東浦漁港看板にて

12 時 18 分 東浦漁港看板

12 時 30 分 作業小屋が並ぶ間の草地、日影を見つけ昼食休憩

漁港奥で道が切れた先がどうか気になる。国道 238 号は海より上がって離れていく。

笠井氏は坂本氏に LINE で道判断を問合せ、班長判断で可となり、波打ち際を進む。

砂浜から石のある海岸線に変化したため、速く歩けない。笠井氏はルート確認、どんどん先行して間隔が離れて行く。

岬を周ると大きな石がでてきた。更に、漁船の網、浮き具、発砲スチロールの破片、ペットボトルなど多様で多量のゴミの中を歩くことになり、はじめての体験となった。防波堤コンクリート塀の大きく破壊している場を上がり下がり、足をどこに置るか探り探り行くため、速く進めない。歩き続けると沢水が流れ込み、ゴミと大きな石に出くわした。班長の姿を目標に岬を周ると男の人 3 人が釣りしている場所に出る。どこかに通じると思って海岸線を進むと、道が見つかり、遙か前方の国道 238 号に車が見えた。班長から「あと 20 分で着くよ」と言われて、登坂車線のある舗装道路を必死に進み、登りきるとレンタカーを見つけて、15 時 50 分ゴールに到着となった。

(岸田英子 記)



速く進めなかった海岸線



思い切って海岸線を進む



国道に出る



宗谷丘陵展望台パーキングからの眺め

【ハヤブサ班：知来別漁港←17.1 km—浜猿払交流センター】メンバー：坂本徹、味沢俊治

浜猿払（はまさるふつ）漁港から知来別（ちらいべつ）漁港まで 17.1 キロを歩行。100 年の歴史を経て平成 20 年に閉校となった浜猿払小学校の跡（浜猿払交流センター）を 10 時に出発。



閉校となった浜猿払小学校跡の碑



猿払川と河口にできた三日月湖



砂浜に出る道を進む



砂浜に出る



美しい砂浜を進む



海鳥の群れに会う

校舎から外れ落ちた時計が悲しい。集落を周回して国道に出る。猿払川と河口にできた三日月湖を渡り、砂浜に出る。橋の上からポロ沼とその周囲に湿原が広がっているのが一望できる。そのまま浜を歩き道の駅に上がる。ここに 1939 年に 700 余名の死者を出したロシア船インディギルカ号遭難の碑がある。この船はカムチャッカからウラジオストクへ向かったもの。



道の駅に上がる道を進む



インディギルカ号遭難の碑



誓いの碑

さらに国道を進むと村営猿払牧場があり、狂牛病発生にちなむ「誓いの碑」がある。そのあと浜に降りて12時45分に昼食。サケ釣りの釣り竿をくぐりながら、ひたすら砂浜歩行。都合100本ほどの釣り竿をくぐったものの、釣り人はほとんどいない。途中、2尾を得た釣り人一人に出会ったのみ。



サケ釣りの釣り竿をくぐりながら、ひたすら砂浜歩行

14時40分、目的地に到着。

(味沢俊治 記)



知来別漁港に駐車してあるレンタカーを発見



目的地に到着して

ハヤブサ班は、チーター班が目的地到着遅延のため宗谷岬でウサギ班をピックアップして、一足先に稚内公園に移動。後からチーター班も稚内公園に移動して稚内公園で全員合流。

合流後に稚内市街の旅館山一に移動・チェックイン。



全員合流し、氷雪の門にて



稚内公園から稚内市街と礼文・利尻へのフェリーを眺める

《3日目（9月16日）》 天気 晴れ：浜猿払交流センター→枝幸町役場



8時00分 旅館山一の前で写真撮影して出発

【ハヤブサ班：浜猿払交流センター—21.9 km→道の駅北オホーツク】メンバー：笠井浩、味沢俊治

昨日の出発点である浜猿払交流センターを今日は南下して、「道の駅北オホーツク」を目指す 21.9 キロ
9 時 31 分、出発してまもなく「猿払電話中継所跡」。1934 年に日本領樺太と東京間にはじめて長距離電話
回線がつながったものの、終戦直後 8 月 22 日のソ連軍樺太上陸がその最後となった。「大日本帝国」の北
の最前線であった猿払を今では想像することは難しい。



出発点である浜猿払交流センター（浜猿払小学校跡の碑）にて



猿払電話中継所跡

浜に降りると靴を脱いで裸足になる。そのまま砂浜をひたすら歩き続けるうちに、ときどき砂丘の背後に
牧草地や針葉樹の森が見える。砂浜で昼食をとった後も単調な砂浜を歩き続ける。



砂浜をひたすら歩く



ベニヤ原生花園に接する細長い潟湖が見える



潟湖の出口と頓別川の河口

2 時半ごろようやく砂丘の上からベニヤ原生花園に接する細長い潟湖が見える。絶景である。この潟湖の出口と頓別川の河口がつながっているところから、小さな崖をのぼり土建業を営んでいる人家に到達。そこにある自販機で冷えた飲み物を購入。まっすぐに伸びる道を国道まで歩く。ショベルカーが砂丘の砂を採取している。

16 時 25 分、国道からクッチャロ橋を渡ると浜頓別の町、道の駅北オホーツクに到達。（味沢俊治 記）



道の駅北オホーツク

【ウサギ班：道の駅北オホーツク→16.2 km→北見神威岬灯台入口駐車場】メンバー：岸田英子、芳森佳子
10 時 00 分 道の駅北オホーツク浜頓別をスタートするもオホーツク海とはまるで反対方向のクッチャロ湖に。10 時 50 分 ようやくスタート地点である道の駅に戻り再スタート。



スタート地点の道の駅北オホーツクの駐車場にて



道の駅北オホーツク近くの浜頓別町役場前にて



砂浜を裸足になって歩く



鮭を持ち上げて「ハイ、ポーズ！」

11 時 40 分 浜頓別の海岸に出て、きれいな砂浜を裸足になって歩く。

秋は生まれ故郷の河川目指して鮭が大量に接岸してくる季節。とは言え、あんな大きく立派な鮭がたくさん砂浜に居ながらにして釣れることを今回初めて知りビックリ！目の前でたった今釣り上げた鮭をおじさん「あまりいいのじゃないんだけど」と言いながらも持ち上げて「ハイ、ポーズ！」。

今日は3連休初日でもあり 実益を兼ねたレジャーとして砂浜は大賑わい。

12 時 20 分～45 分 強烈な陽射しを避けるため、各々テトラポットにすっぽり収まって昼食タイム。

13 時 30 分 砂浜も終わりを告げ、宗谷国道に上がる。

朝の遅れ挽回のためスピードアップして国道を黙々と歩いた甲斐あって、15:10 予定時間内にウサギ班ゴール地点（北見神威岬灯台入口駐車場）到着。

車回収して枝幸町役場に移動。

15 時 40 分 枝幸町役場到着。

15 時 50 分 チーター班合流。



（芳森佳子 記）

ゴール地点の北見神威岬灯台入口到着

【チーター班：北見神威岬灯台入口駐車場—19.4 km→枝幸町役場】メンバー：坂本徹、坂本和子

山一旅館を出発し、R238の北オホーツクトンネル入口手前を左折してすぐの駐車場に車を停める。

10 時 20 分 斜内漁港隣の砂浜を少し歩き、斜内山道を進んで神威岬灯台へ向かう。20 分程で灯台に到着（10 時 40 分）。大きな岩の根元に建つ白黒ソートンの灯台は、海からしか見えないのではと思われる程、隠れるように建っていた。



北見神威岬に向かって車道を進む



北見神威岬灯台

岬を回り込み、トンネル出口に近い辺りで浜に下りる。風は強いが、心地よい砂浜を北見神威岬公園に向かって歩く。11 時 20 分階段を上がって公園に到着、ここは駐車場のみでキャンプはNG だが、緩やかな草地が広がっていて眺めも良い。又「ウバトマナイチャシ」と言って、アイヌの人々が自然の地形を巧みに使って作った「砦（チャシ）」であったとのこと。ここで10 分休憩。



眼下には鬼の洗濯岩のような海岸



これから進む岩礁海岸を背景に

11 時 40 分 目梨泊漁港（オホーツク枝幸北漁港）を通り、鬼の洗濯岩のような海岸を眼下に見ながら道路を進んで、12 時 30 分近くなった砂浜に下りて昼食休憩。小さな石が引き波でカラカラと鳴っていた。そこからしばらく岩礁海岸を歩き、再び道路に合流する。小さな集落や学校があったが、北緯 45 度線の碑を探すも見つける事が出来ず断念する（後にネットで確認した）。

13 時 28 分 R238 に合流し、14 時、問牧漁港（オホーツク枝幸北漁港）手前の川の河口で、腰まで海に浸かって鮭を釣っている人達を見かける。狭い河口に多人数で河口を塞ぐような陣型で待ち構えている姿に少しムッとしたが、鮭は楽々すり抜けて川の遡上を始めていた。



腰まで海に浸かって鮭を釣っている人達



鮭は楽々すり抜けて川を遡上

漁港から先の砂浜には多くの鮭釣りの人々が竿を並べていたので、道路を歩くことにし、どこまでも真直ぐに続く道をひたすら前に進む。



ウスタイベ千畳岩



15時00分 ウスタイベ千畳岩に到着。ここも広い草原のキャンプ場だが、8月末で営業は終了していた。岬の先端には柱状節理の岩棚が広がっていて歩くこともできる。ここから北に目を向けると、今日のスタート地点の神威岬から続く海岸線が一望出来、南の方向にはこれから目指す枝幸の町がよく見えた。

この後は道路を進んで、15時50分枝幸町役場に到着した。

(坂本和子 記)



ゴールの枝幸町役場に到着

≪4日目(9月17日)≫ 天気 晴れのち曇り一時雨：枝幸町役場→道の駅おうむ



出発前に連泊するオホーツクパレスホテル前にて

【ウサギ班：枝幸町役場 —17.0 km→山臼コミュニティセンター】メンバー：坂本徹、岸田英子

9時40分 枝幸町役場発。漁港で漁船、港の視察愉しく、山側にはスキー場、展望場を見つけ、雪量・質が気になり、すぐに出来るとうらやましいと。駐車場にはキャンピングカーなど車多く、釣り準備してテトラポットをさっと降りる人が続く。降りるの難しかった所は、釣り人、海に体入れている人あり。釣り船も出

ている。浜は竿が連立し、釣り糸を確かめながら歩きを進める。



枝幸町三笠山スキー場



出発前に枝幸町役場前にて

砂浜で素足歩きすると「足危ない ガラスがある」と声掛けられ、何しているか聴かれ、北海道海岸線歩きを3度も説明した。渡渉、1回目は足首までの水量、飛んで越える。次は流れがあつたが、班長リードで助けられた。3回目は深い流れがあり、長い木を渡してもらって渡れた。



飛んで越える



浜は竿が連立

11 時 37 分 浜で鮭を釣って針外しをしている人がいたので、写真撮影のお願いし、ポーズしてもらおうが浮かない様子であった。



鮭を釣って針外し



熊鈴をつけ、鳴らし続け進んだ道

道の駅マリーンアイランド岡島に向かう。本道はずれて内側に道があるので進もうとしたら、入口で車を降りてきた婦人が「ヒッチハイクか」と聞いてきた。違うと伝えると「熊出る」「朝とか夕方」「いや 11 時 20 分に出ている」と言うので、両側に背丈の笹藪があるので熊鈴を取り出しつけ、鳴らし続け進んだ。



干潟を渡渉しながら進んだ海岸線

12 時 25 分 道の駅の裏にあるキャンプ場公園に着く。船形の建物上の日影で昼食休憩をする。班長は夕食のお店に予約連絡し、ゆっくりと休みにならないようだ。回りの海の様子を見て、海水浴場の後地から入って、浜に出る。釣りボートを運ぶ男性 2 人とすれ違う。

13 時 11 分 干潟を渡渉し、枝幸岡島漁港に着く。徳志別川に釣り人はない。

15 時 15 分 家並みの間から国道 238 号に上がり、山臼コミュニティセンターに到着、車を回収する。
車で道の駅おうむに移動、展望塔に上がり町の様子を見る。 (岸田英子 記)



枝幸岡島漁港



山臼コミュニティセンターに到着

【チーター班：山臼コミュニティセンター —18.2 km→音標コミュニティセンター】メンバー：笠井浩、芳森佳子

この日のルートはほぼ海岸線伝いでアップダウンもない。

10 時 00 分出発。コミュニティセンターを出発するとすぐに海岸へ出る道があった。以後おおむね海岸砂浜を歩く。4 回目の渡渉でくつを脱ぐ。枝幸漁港を靴を履いて抜け、その後再び裸足に。最初から裸足やサンダルだと渡渉が続いても苦にならない。この日は 10 回以上渡渉をした。フーレップ川は車道に出て青柳橋を渡る。橋の上から数は少ないが、遡上する鮭を見ることができた。河口には鮭釣りの人。学校あたりで砂浜に出るとすぐに長い岩礁地帯となる。一か所だけ慎重に越えたい岩場があった。



山臼コミュニティセンターに駐車、出発前に



快適な海岸線歩行



海鳥のようにポーズ





靴を脱いで渡渉を楽しむ



ちょっとだけ沢登りを味わう



岩礁海岸を進む

音標橋 1 km ほど手前から車道歩きとする。途中、歩行を終えたウサギ班のクルマに追い抜かされた。
15 時 53 分 音標コミュニティセンター着。クルマを回収して道の駅おうむへ向かった。
この日の海岸は前日ほどには鮭釣りの竿はなかった。 (笠井浩 記)

【ハヤブサ班：音標コミュニティセンター —20.3 km→道の駅おうむ】

メンバー：味沢俊治、坂本和子

枝幸（「えさし」と読む）町「音標コミュニティセンター」から道の駅おうむまで20.3キロ。

9時00分出発。港の南側の崖から砂浜に降りる。小さな海食崖の水流で浸食された壁面に無数の穴。鳥の巣か？本日初めての渡渉点。和子さんは裸足になって渡るも、私は飛んで渡った。崖もあまり高くない岩礁海岸を通過しながらまた砂浜へ。雨で増水した幌内川河口は、釣り人はいるも渡渉不可能である。幌内港を通過し、砂丘上にできた轍の残る道を海浜に沿って歩く。



出発前に



海食崖の水流で浸食された壁面に無数の穴。鳥の巣か？



裸足になって渡る



崖もあまり高くない岩礁海岸を通過しながらまた砂浜へ



海浜に沿って歩く



美しい海岸線を歩く



店主は牧場主の奥さん

地図上にある道が途切れたため廃屋の横を通り国道に出る。雨の中、バス停留所の小屋で昼食。音稲府岬とウエンコタン海食崖は魅力的だが天候と時間から断念し、国道をひたすら歩く。両側には広大な牧場が広がるなか、カフェ風の建物が見える。まさか、こんな場所に？と思ったがおしゃれなカフェ「うしり」。女性客がひとり。店主は牧場主の奥さん。そこで30分ほど。牧場でとれた枯草のにおいのミルクを頂く。190円也。私はアイスクリームも。20分ほど道草して、16時に目的地道の駅おうむに到着。（味澤俊治 記）



枯草のにおいのミルク



全員道の駅おうむに集結して

≪5日目（9月18日）≫ 天気 雨：道の駅おうむ→紋別市役所

【ハブサ班：道の駅おうむ →19.1km →道の駅おこっぺ手前2kmの駐車帯】メンバー：坂本徹、芳森佳子

9時20分 道の駅雄武に移動後スタート 10時00分 砂浜に降りる。

10時20分 大きな川に阻まれ砂浜断念して国道238号に戻る。



スタート前に道の駅おうむのバス停にて



大きな川に阻まれ砂浜断念

今年度で廃校が決定している雄武町立共栄小学校の閉校式をお知らせする大きな看板が。2人の在校生は毎日この看板をどんな思いで見ながら通っているんだろう

10時40分 当沸橋の横から再び砂浜にチャレンジ。15分かけてようやくチャレンジ成功！

長い砂浜歩きや渡渉を繰り返しているうち、だんだんと川巾が広くなり、雨のせいか水量も多く流れも速い河口が増えてきて、ん？さすがにもう泳ぐしか・・・ない！ない！それはネ（笑）。



小学校の閉校式をお知らせする看板



ワクワク半分しながらなんとか出られた砂浜

12時00分 断念して少し引き返し、なんとか無事再度国道238号に。上がったところの橋の名前『御多込薬橋』（おたこむしべばし）、きっと何度聞いても覚えられそうにもない。

12時30分 日の出岬入口、12時45分 降り続く雨をしのげる立派なバス停が光り輝いて見えた。まさに天国のような場所での昼食で元気回復。



日の出岬入口の案内板



立派なバス停と昼食で元気回復



13時00分 日の出岬展望台。あいにく眺望は望めないけれど。



日の出岬展望台



展望台から進む方向の海岸線を眺める

13 時 55 分 通りがかった水産物加工所で、新巻鮭を作っている行程を見せてもらったり、漁港からトラックで運ばれてきたホタテが加工所に入るところを見たり、はたまた牧場を通りかかった時に、熊除けの鈴に反応したのか？牛さん達が近寄ってきたり。等々なかなか雨の中の車道歩きも楽しいものだ。



水産物加工所



ホタテが加工所に入るところ



牛さん達が近寄ってきた



ゴールに到着してポーズ

15 時 20 分 ゴール到着、車回収して紋別市役所に移動。

(芳森佳子 記)

【ウサギ班：道の駅おこっぺ手前の駐車帯 —12.7 km →沙留漁港】メンバー：味沢俊治、岸田英子

9 時 45 分 雨予報、回復傾向に期待して歩きはじめる。

国道 238 号より浜までの道探るが、牧場・牧草地があり、海岸側に河口を探り歩くが道が無くなった。川は広くて深く渡渉は難しいため、橋を渡った。



スタート地点に駐車して



浜までの道を探りながら歩く

オホーツク海の河口の流れを反時計回りに巻いている不思議な景色を班長から説明を受ける。



河口の流れを反時計回りに巻いている不思議な景色

11 時 23 分 線路跡の藻興部橋鉄橋に合う。緑色でしっかりとした歩行橋側を歩く。雨量は増すばかりで、靴の中まで濡れる。



線路跡の藻興部橋鉄橋



歩行橋側を歩く

12 時 39 分 豊野バス停の建物に入り ベンチに座り昼食休憩。



豊野バス停の建物にて昼食休憩

海に向かう道に入り、空き家があり進むと牧草地の中を歩く。車が 1 台通過する。川を挟み、また丘陵に。ブルドーザーが木を運び上げる作業音を聞きながら、どこにつながるか不明の通路を探る。牧草地の丘陵、木立は広く美しく、丘の上へ上へと進んでいく。雨が小降りになると気持ちが違う。

作業場所に茶色の鹿らしい気配を感じたため声出す。茶色の動物がピタリと止まり、私たちを見る。キタキツネの遊びか、大小が絡みあっていることが解る。班長は静かに近づき、写真に収めるが、すぐに去って行った。牧草地の通りから国道 238 号に出て、漁港が見えたので急ぐ。



大小が絡みあっているキタキツネ



国道 238 号に出て歩く

沙留の町に入り海が近くになり、河口を確かめに浜を歩く。班長は海側を進むが、私は濡れる浜歩きはしたくないため、上の舗装路を進む。沙留海水浴場、町の中の公園を通過し、鮭の大きな加工場を通り、再び国道 238 号に出る。結果として遠回りになり、早く漁港に着いた班長から問合せの連絡があり、別行動をとがめられる。漁港入口で班長と合流し、車を見つけることができた。無事岸田運転で紋別市役所に移動した。

(岸田英子 記)

【チーター班：沙留漁港 —14.7 km→紋別市役所】メンバー：笠井浩、坂本和子

8 時ホテルオホーツクパレスを出発、8 時 35 分沙留漁港に到着。

雨の為合羽上下を着て歩き始める。漁港の先の橋を渡った所で加工場の脇の道から砂浜に出る。真直ぐな砂浜を海からの雨風を受けながら進む。途中数回小さな川を飛び越える。この天気の中、沖で仕掛けを使った漁をしている船がいた。



雨の為合羽上下を着て出発



湖畔橋を渡る

9 時 45 分オムシャリ沼から流れるオムサルル川（思沙留川）は、水量が多くて渡れず、少し戻って道路に架かる湖畔橋を渡る。この橋に並行して少し離れた所に、廃線になった JR の鉄橋がそのまま残っていた。



廃線になった JR の鉄橋



天気が悪いので大漁らしい？

10 時 23 分オムサロ原生花園の手前で合羽を着て釣りをしている人に鮭を見せてもらう。天気は悪いが（悪いから？）今日は大漁らしい。



オサム口原生花園の施設



オサム口原生花園の標石にて

10時26分オサムロ原生花園の施設（売店、休憩所、トイレ等）で30分程休憩、椅子があつてホッとする。今日歩き始めてから初めて座ったのかもしれない。雨も心なしか小止みになった。

10時54分原生花園の歩道を抜けて砂浜に出る。歩き出すと又雨が強まってきた。



原生花園の歩道



歩き出すと雨が強まってきた

11時25分渚滑川河口手前で川幅が広くて渡れず、川に沿った堰堤を折り返して引き返し、11時44分渚滑橋を渡る。再び倒木の多い砂浜を進むが、波が風によって強く押し寄せ、海藻も浜に大量に打ち上げられている為歩くところが狭まってきた。海は川が運んだ土砂で、はるか沖まで濁った茶色が広がっている。

12時42分細い堤防の上に登って進み、12時53分もうこの辺で良いかなあと、堤防の切れた所で道路に戻る。後は海岸に近い道路を進んで、雨の中おもちゃ屋さんの軒を借りて立ったまま休憩。



細い堤防の上に登って進む



おもちゃ屋さんの軒を借りて立休み

ゴールは近いのだがそれでもと、13時45分紋別港の傍の弁天岬まで足を延ばす。ひっそりとした街を雨に濡れながら歩き、紋別市役所に14時到着。市役所の軒下で40分休憩したが、迎えの車がまだ当分来ないので、16分歩いて展望台のある紋別公園に向かう。雨が小止みになり、紋別の街を眺め少し散策して15時44分再び市役所に戻る。

(坂本和子 記)



史跡 紋別場所 1 御用所跡



紋別市役所前の横断歩道にて



流水展望台のある紋別公園にて



紋別公園内にあった紋別灯台



流水展望台からの紋別市街の眺め



全員が紋別市役所に集結して

《6日目（9月19日）》 天気 雨のち曇り：大雪山交差縦走延期、富良野・美瑛観光

8時30分ホテルクレセント旭川を出発。今朝はホテルの朝食が付いてなかった為、部屋で食べたり、街に出て味わった人もいた。



出発前にホテルクレセント旭川にて

10時20分富良野市の麓郷の森に向かう途中、上富良野町にある日の出公園に立ち寄る。冬はスキー場、夏はラベンダー畑になる小高い丘の公園で、展望台近くにはまだ夏の名残の花が咲いていた。大雪山や十勝連峰、芦別岳や遠く夕張岳も見る事が出来、20分程展望を楽しむ。



日の出公園の展望台から十勝連峰を背景にして



かみふらの八景の眺め



男性トイレからの十勝連峰の眺めと展望図

11 時 10 分麓郷の森到着。「北の国から」の放映が始まってから 40 年余りたつが今だに根強い人気を誇る。初回の頃のビデオが流されており、一瞬にして「北の国から」ワールドに惹き込まれた。舞台になった家を何件か見ながら 30 分程倉本聡の世界に浸る。次の拓真館に向かう途中、「山頭火」で昼食、旭川ラーメンを堪能する。13 時 20 分拓真館到着、美瑛の丘の美しい四季の写真を鑑賞する。



「北の国から」ロケ地/丸太小屋・五郎の 3 番目の家



倉本聡「灯は小さいけれどいつもあったかい 北の国から」



廃屋だった五郎の 1 番目の家





「拓真館」の白樺回廊



前田真三の写真（拓真館にて撮影）

その後今日の宿、層雲峡観光ホテルには2台の車は別々のルートで向かい16時10分チェックイン、大雪山の麓に湧く温泉を楽しんだ。
(坂本和子 記)

《7日目（9月20日）》 天気 晴れのち曇り一時雨：層雲峡

7時30分朝食、8時40分ロビー集合、集合写真をとって出発。

天気は晴れ、風強し。層雲峡ビジターセンター近くの道端で、今日の歌「大空と大地の中で」を合唱。



層雲峡観光ホテルの看板を入れて



層雲峡観光ホテル前にて



今日の歌「大空と大地の中で」を合唱

9時00分～9時45分層雲峡ビジターセンターでは、大雪山の四季(20分)と層雲峡の秘密(8分)のハイビジョン映像を視聴しました。

9時55分大函を見学。

10時15分～11時15分、銀河の滝と流星の滝を見て、双瀑台まで登りました。一時雨に降られる。



層雲峡ビジターセンターの入口にて



大函を背景にして



流星の滝を背景に



双瀑台に登って



銀河の滝（左）と流星の滝（右）

12 時 15 分～40 分男山酒造り資料館を見学。

旭川ラーメン村でラーメンを食べようとしたが、どのお店も行列のため断念。近くの「きょうぎのみよしの」に入る。他に客はいなかった。



男山酒造り資料館入口にて



ラーメン村の様子

14 時 20 分～15 時 50 分レンタカーに給油し、「北鎮記念館」を見学しました。

今日のお宿はバック商品などのため、各自バラバラとなった。

ホテルで温泉などでのんびりして、19 時 00 分の夕食&交流会会場の「濱焼北海道魚萬 旭川 2 条通店」に集合しました。夕食&交流会では今回の歩行と名所旧跡巡りを振り返りながら楽しいひと時を過ごしました。



「北鎮記念館」の前で



夕食&交流会会場の「濱焼北海道魚萬」の外観

《 8 日目（9 月 2 1 日） 》 天気 曇り：旭川市内名所巡り、旭川空港昼便にて羽田空港へ

8 時 40 分味澤さんとホテル近くのセブンイレブンで合流。

芳森さんは別行動となり、旭川駅前 8 時 40 分のバスに乗って旭川動物園へ。

9 時 00 分 旭川市博物館駐車場で笠井さん、岸田さんと合流。

11 時 00 分 旭川市博物館発、途中レンタカーに給油し、オリックスレンタカー旭川空港店 11 時 30 分着。

搭乗手続を済ませて、空港内のレストランで昼食。

13 時 25 分発の便で帰途へ

芳森さんは、19 時 30 分の便で帰途へ。

羽田空港 15 時 55 分着、16 時 05 分解散しました。

(坂本徹 記)



旭川市博物館にて



博物館近くの大雪クリスタルホールにあった「雪の降る街を」歌碑



活躍したレンタカー〔フリード（左）とロッキー（右）〕



復路の飛行機から見た大雪山系

7. 参加者感想

【味沢 俊治】

私の海岸線歩行も、おかげさまで青森3回、北海道5回と数を重ねてきた。定年を過ぎた運転免許証返上者にとって、このような旅が続けられることは夢のようなことである。毎度のことながら、坂本さん、笠井さんをはじめとする皆さんに感謝したい。

稚内から紋別までオホーツク沿岸を百数十キロ歩く今回は、とりわけ期待した。五万分の一地形図を見ると、延々と続く歩行可能な砂浜海岸。浜に並行するエスケープ可能な国道。それらに挟まれるように点在する砂丘や草原、豊かな水をたたえる潟湖と湿原という多様な後背地に恵まれている。今回は三日月湖や蛇行する河川にもお目にかかった。まさに海岸線歩行の醍醐味には、おあつらえ向きのオホーツク海である。

ところが実際に来てみると、浜への進入路に4WD がとめられ、延々と続く砂浜海岸を占拠するように強欲な釣り竿たちが突き立てられている。9月、産卵のために遡上する鮭との出会いは、ふたを開けてみれば、この興ざめな風景との出会いとなった。

今になって思えば、何か腑に落ちない残念さは実はここにあったのかもしれない。

私の期待した「荒涼としたオホーツク海」は、天気の良い週末にサケ釣りにきた人々のレジャーの場であったのである。この地の人々と鮭との関係を思い知らされた風景であった。とはいえ、海岸地形の作り出す砂丘、潟湖や三日月湖、湿地は予想通り素晴らしいものだったことは、いうまでもない。さて、来年6月のオホーツク海は、はたしてどのような姿となって私の前に立ち現れるだろうか。

【岸田 英子】

山岳写真カレンダー9月は、旭岳(大雪山)日本中で最も早く秋になるとのコメント。

層雲峡には山行した人、する人がいる。山は夏模様

ビジターセンターに入る。熊の剥製2体の大きさと毛の感触に驚く。映像、春夏秋冬鑑賞、生き物の鳴き声いいいい。鳴きウサギのブースで 地球氷河期からの生き物、ユーラシア大陸から北海道で生き続け、岩間の住まいに2体の姿ジオラマ、実際には見つかり見ること困難など 広くトイレの場も清潔に 糞は1回は細長に出 栄養 ミネラル成分あり また口にして 糞2回目はこちらになる。すごいと感動、笠井氏に鳴き声に付いて質問、鳥かなと遭遇した時感じた。生き物たちの姿は命の続く凄さ、愉しく感じた。ドラマ「北の国から」ロケ地 丸太小屋、拓真館の前田真三 前田晃の写真、道歩き 北鎮記念館。旭川の開拓 防衛の歴史 現役青年自衛官の案内解説、酒蔵「男山」の歴史、博物館にてアイヌ民族の歴史文化を知り、北海道の魅力増すばかりです。いつもお世話になる坂本徹さん 皆様に感謝しております。

【坂本 和子】

前半は天気恵まれ、宗谷岬の風は今までに訪れた中で最も穏やかで、樺太がとても近くにはっきりと見えた。市内で時折見かけるロシア語の文字が象徴するように、稚内に暮らす人々にとって、ロシアは今も昔もとても密接な関係のようだ。

今回の旅では、ホタテの水揚げ作業の様子、鮭が川を遡上する姿やそれ以上に多かった鮭釣りの人達、丹頂鶴やオジロワシ、キタキツネや大量のエゾシカ等々、北海道ならではの光景に出会うことが出来嬉しかった。又、水揚げされたばかりの帆立や、干し草の香りのする牛乳を思いがけず頂くことになり、美味しい記憶のお土産まで付いた。

今までオホーツク海沿岸の印象と言えば、流水位しか思い浮かばなかった私にとって、こんなに砂浜が続いているとは、ドライブや観光地巡りでは気づけない、新たな発見であった。これも歩いたが故のご褒美だと思う。

丁度今、原発事故による処理水の海洋放出に伴い中国への輸出が禁止となったホタテ、私が見た漁港だけでも、大量のホタテが冬になるまで毎日水揚げされるそうで、オホーツク海や噴火湾などの他の漁港でも、同じ光景が繰り広げられているはず。大震災と原発事故から10年以上たった今尚、こんな形で大きな影響を受けることになるとは誰が想像できただろうか。この大量のホタテの行く末を考えさせられる旅でもありました。

【笠井 浩】

北海道海岸線歩行参加2回目。歩いたコースは比較的単調であったが、車道歩きは少なく真の海岸線を多く歩けた。ただ、遡上する鮭を狙う釣り人、釣り竿のあまりの多さには閉口した。よれよれの鮭を見ると気の毒で中島みゆきの「ファイト」（それとも「サーモンダンス」？）を思い出さずにはいられなかった。

また、今回初めて雨の中を歩いた。晴れるに越したことはないが、観光だけで何日も費やすのは参加者の嗜好もそれぞれなので無理がある。雨でも歩行の中に楽しみを見出したい。

歩行と並んで楽しみなのが一日歩いた後の宿でのひとときであるが、宿の食事は皮肉にも一番安かった稚内の旅館が一番よかった。これからも皆で情報収集して安くお得な宿に多く泊まれればいいと思った。次回もよろしくお願いします。

【芳森 佳子】

今まで観光旅行としては幾度か訪れたことのある北海道。しかし海岸線歩行として今回初めて参加させて頂き、ほんの一部とは言え今までとはまるで違う北海道を見、気づき 驚いた事数々でした。

スタートの宗谷岬からロシアのサハリン南端はたったの43km。日本から一番近い海外はロシア、と言われても「ん？」すぐそこに見えるのに その地にまるで親近感もなく何も知らない自分に改めて気づきました。そして 価格、ボリュームなど日本一と言われている猿払村の地撒き式ホタテのスケールの壮大な水揚げを間近でみることで感激すると同時に 3月中旬～11月末まで連日休みなく一隻当たり11トンもの水揚げをしているというから 中国の禁輸の影響は如何ばかりか。生産者は心穏やかでない日々を過ごしておられることでしょう。

でも 何より今回私が一番驚いたのは 三班に分けて歩行という方式。初めてで戸惑っていましたが、車の配置や歩行時間などどれほど考えればこんなにもスムーズにいけるんだろう？と只々感心を通り越してまさに驚きのひと言です。

坂本様、皆さまお世話になりました。楽しい体験をたくさんさせて頂き有難うございました。